蒸留装置 レンタルヒアリングシート



差支えない範囲で結構ですので、ご記入をお願いします。 必要であれば、秘密保持契約締結も可能です。その際は別途お申し付けください。

			こ 記入口	+	Л		
貴社名		氏名					
	=	TEL					
住所		FAX					
		E-mail					
4							
十一 不切开	用したいサービス						
	実験環境丸ごとレンタルサービス 弊社の実験室にて、弊社のガラス製装置をご使用いただくサ	サービスです。					
	□ 実験装置かんたんレンタルサービス 弊社保有の実験装置をお客様のところまでお送りし、お客様の研究室などでご利用いただけます。						
	受託実験サービス サンプル(試料)をお送りいただき、ご指定の実験条件に基づ	づいて、弊社のスタッフが!	実験を代行いたします。				
2 スケ	rジュール						
	望時期 例)4月第2週目頃、4/10以降 等						
1							
2				_			
ご利	月用日数 例)2日間						
3 見積	責範囲						
<u> </u>	装置本体(組立架台込) □ 装置本体+依	付帯設備一式(詳細は後)	 述でご選択ください)				
	ービスの利用場所						
	検装置かんたんレンタルサービスをご利用の方は、下記に装 <u>間</u>	<u>量の発送先をご記入くださ</u>	CV _o				
一							
オプ	プション						
	□ 実験オペレーター 弊社スタッフがオペレーターとして、装置の運転条件の調整や運転操作を行います。 実験環境丸ごとレンタルサービスでも、実験装置かんたんレンタルサービスでもご利用可能です。 ※受託実験サービスでは、オペレーターは標準プランに含まれています。						
	□ 実験後サンプル分析サービス 回収したサンプルの分析を承ります。詳細については、別途お打ち合わせをお願いします。						
その)他ご希望がございましたら、下記にご記入ください。						

4 希望装置·試験概要

蒸留方法に対する装置の種類

※ 蒸留方法の分類は、主に下記2種類に分かれます。目的によって蒸留方法および装置構成は異なります。 また、同じ蒸留方法でも、ユーザー様のサンプルや蒸留条件によって、装置構成は変わってきます。

ご希望の装置にチェックをお願いします。

1、単蒸留(フラッシュ蒸留)

サンプルの沸点差を利用して、蒸発しやすい成分(低沸点成分)、蒸発しにくい成分(高沸点成分)に分離します。

イメージは濃縮に近く、極端に高い濃度のサンプルを精製することはできません。

□ ロータリーエバポレーター :一般的に物質の濃縮に多く利用されます。□ 薄膜式蒸発装置 :熱敏感性サンプルの処理に適した装置です。

□ ショートパスエバポレーター : 薄膜式蒸発装置より高真空での運転が必要な時に適し、熱敏感性·高沸点物質の蒸発向きです。

2、多段蒸留(精留)						
	るのようには、他のでは、100mmのです。 真空蒸留操作も可能です。 100mmのでは、10					
	:棚段塔構造のため、より確実な気液接触を保った蒸留操作が可能です。					
□ 充填式蒸留装置	:条件に応じた充填物で蒸留実験をお試しいただけます。					
処理目的(主目的、その他留意点な	処理目的(主目的、その他留意点など、できるだけ定量的にご記入ください。)					

装置を選定するにあたり、下記のご記入をお願いします。

装置構成を設定する上で、重要な指標となりますので、ご協力をお願いします。

また、水が含まれる場合は濃度をご教示ください(水が含まれると蒸留の難易度が上がります)。

- ※ 設計温度:常温~200°C 熱衝撃温度差(ヒートショック): Δt110°C
- ※ フッ化物を含む、燐酸・熱燐酸・フッ化水素酸及びアルカリのご使用はおすすめできません。

<原料サンプル物性>

			強酸 I			弱壓	6 Z			中性 I			弱アル	カリ		強	アルカリ I	,
1	pH値		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	
		その作	也()
2	比重																	
3	常温での状態	固体	z ·	液体	Ż													
4	融点[℃ or K]																	
5	粘度 [cP] ※常温で固体の場合は融点 付近での値																	
6	共沸性の有無	無	ŧ.	有														

補足:記入は「~と同等」でも可(例:水と同等、蜂蜜と同等など)

<原料サンプル組成・物性>

		成分1	成分2	成分3	成分4
7	含有成分名				
8	組成 質量分率 [%] or モル分率 [%] or 体積分率 [%]				
9	沸点 [℃ or K]				
10	融点[℃ or K]				
11	引火点 [℃ or K] ※点火元があると蒸気に引火する 温度				
12	発火点 [℃ or K] ※点火元が無くても蒸気が発火する 温度				
13	可溶性溶媒(複数可)				

蒸留後

<低沸点成分側(留出)物性>

14	比重				
15	常温での状態	固体 · 液体			
16	融点 [℃ or K]				
17	粘度 [cP] ※常温で固体の場合は融点付近 での値				
1Ω	蒸留後の希望組成 質量分率 [%] orモル分率 [%]	成分1	成分2	成分3	成分4
10	負重分率 [%] orモル分率 [%] or 体積分率 [%]				

補足:記入は「~と同等」でも可(例:水と同等、蜂蜜と同等など)

<高沸点成分側(釜残)物性>

19	比重				
20	常温での状態	固体 · 液体			
21	融点 [℃ or K]				
22	粘度 [cP] ※常温で固体の場合は融点付近 での値				
23	蒸留後の希望組成 質量分率[%] or モル分率[%]	成分1	成分2	成分3	成分4
	or体積分率[%]				

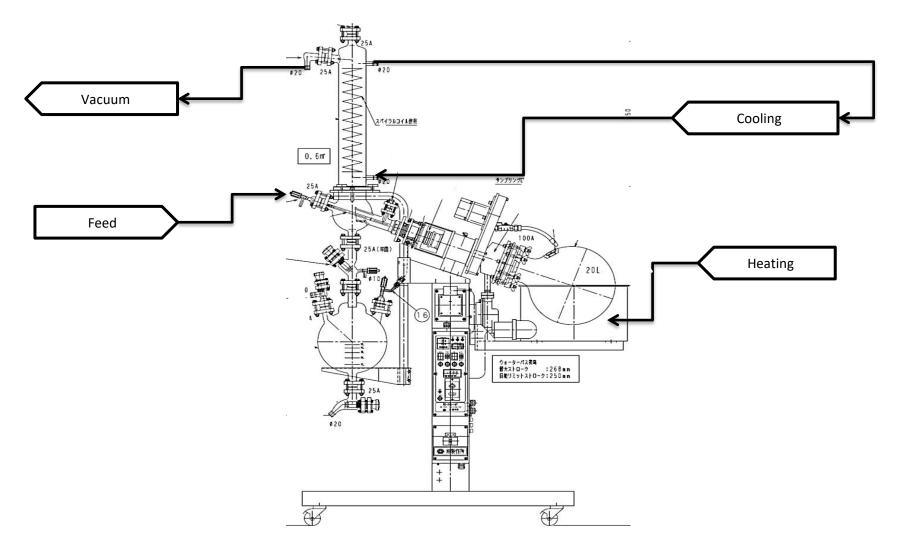
補足:記入は「~と同等」でも可(例:水と同等、蜂蜜と同等など)

6 サンプルの危険性と装置運転上の想定される問題要因

適用法規制の有無	< 有() · 無 >
設置予定場所 (貸し出しの場合のみ)	W×D×H寸法	
サンプルの腐食性	< 有 ・ 無 >	有りの場合の腐食対象
引火性	< 有 ・ 無 >	
毒性	< 有 · 無 >	
臭気	< 有 · 無 >	
タール、重合物等の汚れ	< 有 · 無 >	
熱安定性	< 有 · 無 >	最大温度制限℃
発泡性	< 有 · 無 >	
スラリー(固形分)	< 有·無 >	有りの場合 < 濃縮前 ・ 濃縮後 >
その他		

ご希望の装置を選び、ご記入をお願いします。

ロータリーエバポレーター



ロータリーエバポレーター 20L

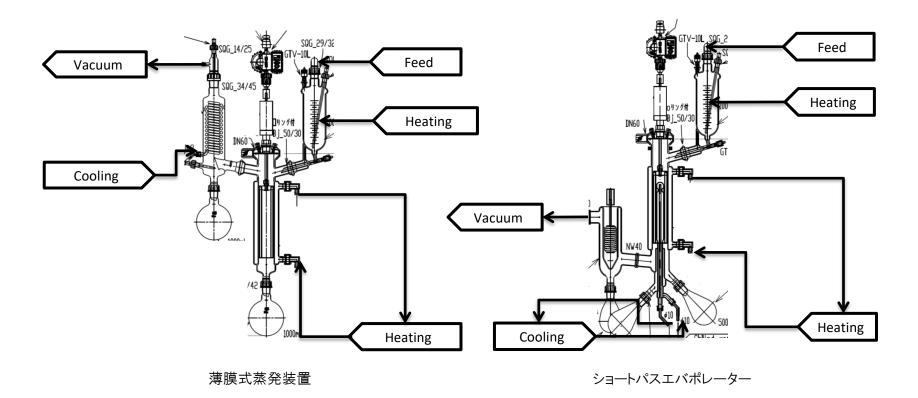
運転条件

真空度 [Pa or torr]		
釜温度 [℃ or K]		
冷却器温度 [℃ or K]		
連続供給の有無 [mL/min]	無・有(mL/min)

使用装置·設備

※ ご希望のものにチェックをお願いします。

装置本体	□ ロータリーエバポレーター 20L (仕込み量約7L)
	□ ロータリーエバポレーター 100L(仕込み量約35L)
	□ 真空ポンプ
	□ 真空ゲージ
付帯設備	□ 真空表示器
	□ 冷媒循環装置
	□ 小型窒素ガス製造機



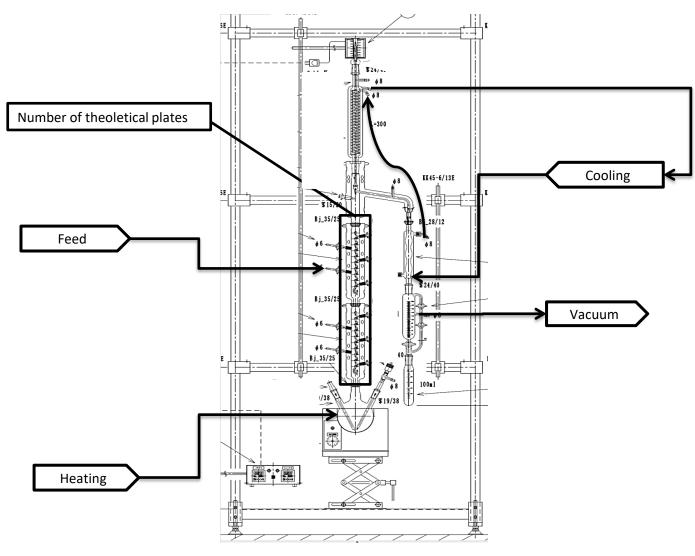
運転条件

-	
真空度 [Pa or torr]	
ジャケット温度 [°C or K]	
冷却器温度 [℃ or K]	
供給速度 [mL/min]	
供給器温度(予熱) [℃ or K]	
撹拌モーター回転数 [rpm]	

使用装置·設備

※ ご希望のものにチェックをお願いします。

	□ 薄膜式蒸発装置 DN60 (仕込み量1L)			
装置本体	□ ショートパスエバポレーター DN60 (仕込み量1L)			
	□ ショートパスエバポレーター DN100(仕込み量2L)			
	□ 真空ポンプ			
	□ 真空ゲージ			
	□ 真空表示器			
	□恒温槽			
	□ リボンヒーター + 制御装置 (各部加熱用)			
付帯設備	□ マントルヒーター + 制御装置 (供給器加熱用)			
	□ 冷媒循環装置			
	□ 撹拌機			
	□ 送液ポンプ(ダイアフラム)			
	□ 送液ポンプ(チューブ)			
	□ 小型窒素ガス製造機			



オールダーショウ式蒸留装置

運転条件

真空度 [Pa or torr]		
釜温度 [℃ or K]		
冷却器温度 [℃ or K]		
連続供給の有無 [mL/min]	無・有(mL/min)
必要段数 [段]		

使用装置·設備

※ ご希望のものにチェックをお願いします。

装置本体	□ オールダーショウ式蒸留装置 塔径DN30、ジャケット付き
	□ 充填式蒸留装置 塔径DN30、ジャケット付き ※充填物は要相談
付帯設備	□ 真空ポンプ
	□ 真空ゲージ
	□ 真空表示器
	□ マントルヒーター + 制御装置
	□ 冷媒循環装置
	□ フィードアダプター
	□ フルジャケットウィットマー分留器
	□ 送液ポンプ
	□ 小型窒素ガス製造機

** ノ ル ナストナー	-タなどご開示いただければ、幸いです。その他、ご希望の装置構成があればご記入ください。
<u> </u>	